



笑顔いっぱい かがやく入谷っ子

2学期がスタートしました

本日から2学期がスタートしました。新型コロナウイルス感染症がまだまだ落ち着かない状況ではありますが、通常どおりの形での開始です。熱中症対策として、登下校や体育の時間等、マスクを着用しない場面もありますが、3密の回避も含め、新型コロナウイルス感染症対策も引き続き指導していきながら、教育活動を充実してまいります。今学期もどうぞ、御理解・御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、元気に登校してきた子供たち。夏休みは、子供たち一人一人にとって、かけがえのない時間であったことと思います。2学期にすぐに繋がることもあれば、時間が経過した後に繋がるものもあろうかと思えます。子供たちと話をしたり、表現したのを見たりしながら、子供たちの思いに触れていこうと思っています。

私自身は、本や仲間との対話の中から、多くの人の生き方に触れたり、素晴らしい言葉に出合ったりすることができました。男尊女卑の思想が根強かった時代を生き、「矢嶋楯子」と「荻野吟子」。時代の厳しさの中においても、「使命とは、命を使うこと。自分の命は、自分で使う。」という強さを持ち、女子教育に力を注ぎ、女性解放運動に生涯を捧げた「矢嶋楯子」。日本で初めての公認女性医師となった「荻野吟子」。医学を学ぶ学校の入学や国家試験の受験資格も男性だけ。多くの困難にのみ込まれそうになっても、信念を貫き通し、女性医師になっていく姿は心打たれるものがありました。「矢嶋楯子」も「荻野吟子」も、自分自身の苦しさ、辛さを通して、自分と同じ状況にある人達の力になろうという強い思いで行動していく姿が

あり、2人のもつ「人間の強さと美しさ」に感動しました。

始業式には、この2人の話ではなく、「命の授業」という本を書かれている、腰塚勇人さんの「5つの誓い」を紹介しながら話をしました。

- ・口は、人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう
 - ・耳は、人の言葉を最後まで聴いてあげるために使おう
 - ・目は、人のよいところを見るために使おう
 - ・手足は、人を助けるために使おう
 - ・心は、人の痛みがわかるために使おう
- 「命の授業」腰塚勇人：ダイヤモンド社

腰塚さんは、中学校で体育の教師をしていた方です。スキーをしている際に、首の骨を折り、寝たきり状態になってしまったそうです。しかし、周囲の力の支えの中、御自身の懸命なりハビリの結果、歩くことができるようになったということです。「生きていることは当たり前でなく、生かされていること」に気づかされ、5つの誓いを立てられたとのこと。

子供たちには、上記の話の後に、自分に与えられ、当たり前に使っている、口・耳・目・手足・心を、自分も含め、周りの人の幸せのために使っていきましょうと話しました。例えば、あなたの目を使って、隣にいる友達のよいところを見つけ、あなたの口を使って、言葉にして伝えていく。あなたの足を使って、困っている友達のところへかけよっていく、あなたの手を使って、誰かの荷物をもつ。友達の心に寄り添うことを心がける…。小さなことからできることを始め、みんなでいい2学期を創り上げていきましょうと話しました。

私も心がけていきたいと思っています。